

「頂点への第一歩！」



レース仲間のアドバイスが効いた！ #149



あとは優勝が欲しい #45



初参加で初表彰台3位！ #150



途中好調だったがリタイヤに #26



懸命の修復も実らず

3月19日現在、侍ジャパンはドジャースタジアムでの準決勝に備えてアメリカ入りし、調整を行っているときく。世界の頂点を目指す戦いはまだまだ始まったばかりだ。

それはK 耐久東海シリーズも同じ、8ヶ月後の栄冠に向けて、目の前のコーナーを一つ一つクリアする。ライバルに打ち勝つのも大切だが、そのためには自分たちのポテンシャルと集中力を高める…まさに侍の心意気。

春の陽光に照らされたスパ西浦にもそんな侍たちが集まった。さあどんな生き様を見せてくれるのか。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

10年目を迎えた今季は、昨季から新設された、初心者を対象とした「ビギナークラス」も含めマシン規定には大きな変更はない。その一方でレース運営規則では変更があった。昨季まではビギナークラスの車両がエキスパートクラスの2秒落ちより速いタイムを記録すると、賞典外というルールだったが、今季からはその周回はカウントしないというペナルティ運用になった。昨年の開幕戦においてはビギナークラスの初年度ということもあり、賞典外の車両が出てしまったが、今年はそのようなことはない。ただ、ビギナークラスの意義を理解した上で、ペナルティを受けないように気をつけてほしい。この開幕戦では4台がビギナークラス出走。

■予選

予選トップは#149「K4EP アルト 149R」1'09.880、とうとう1分10秒台を切ってきた。ビギナーといえどもなかなかの速さを見せてクラストップを獲得。2位は#45「インフィニティーアルト」1'14.376、昨年はチャンピオンに一步及ばずの2位だったチーム、今年こそはの思いも強い。

3位は初参加の#26「K-ミラ」1'14.501、クラス唯一のミラL250。予選終了間際にホワイトラインカットなどのペナルティ対象となる事案もあり忠告を受ける、決勝ではペナルティの無いことを願う。

4位は#150「SZK-150 アルト」1'22.022、こちらも初参加。予選ではピットに入るシーンも見受けられたが、しっかりと予選は通過。

ちなみに#26のミラ以外はすべてHA23Vのアルトバン。

■序盤

序盤からレースを引っ張るのは、予選クラストップからスタートの#149「K4EP アルト 149R」。最初のスティントで2位以下をラップするペースで周回を重ねる。2位は#45「インフィニティーアルト」、ペースとしては悪くないが、あまり離されず付いていきたい。3位は清々しいマシン名の#26「K-ミラ」はこの位置、初参加の硬さもとれてきた頃か。

4位はこちらもシンプルな名前の#150「SZK-150 アルト」、こちらも初参加チームだが、ここまでのところはまずは無難に走り出したようだ。



Race Report



■中盤

中盤でも#149「K4EP アルト 149R」はペースをキープ、トップを行く。2位争いは接戦、ともに初参加チームの#150「SZK-150 アルト」と#26「K-ミラ」が激しく競り合う。レース中のベストタイムは#150「SZK-150 アルト」が速いようだが、#26「K-ミラ」もしっかりと食らいつく。

4位は途中のスピンで順位を下げた#45「インフィニティーアルト」、幸いにも再スタートができ戦列に復帰。周回数こそ離されたが、まだまだ挽回のチャンスは十分だ。

■終盤

相変わらずトップ守るのは#149「K4EP アルト 149R」、途中ピットストップの間に#150「SZK-150 アルト」がトップに立つが、すぐに奪い返す。

2位はその#150「SZK-150 アルト」、初参加とは思えない、イキイキとした走りです。2位を快走。3位には挽回してきた#45「インフィニティーアルト」が再浮上、さらにもう一つ上のポジションを狙う。

中盤までは好調だった#26「K-ミラ」だが、クーラント漏れと思われるトラブルからピットに入り修復を試みる。が、結局再出走ならず 67Lap でリタイヤとなってしまった。

■最終結果

結局チェッカーまでトップを守った#149「K4EP アルト 149R」、が初優勝。2位は終盤でかわした#45「インフィニティーアルト」が入り、3位には#150「SZK-150 アルト」というリザルト。

■総評

昨年から参加し、初優勝を飾った#149「K4EP アルト 149R」、今回は来ていないが昨年連勝も飾った強豪チームの#74「アルジェンタートアルト」からアドバイスを受けたとのことで、見事に結果につなげた。

2位の#45「インフィニティーアルト」は自己最高位タイだが、頂点までのあと一歩がほしいところだ。3位#150「SZK-150 アルト」は初参加ながら初表彰台という好成績で、今後がさらに期待される。

今季改定されたアンダータイム規定だが、この開幕戦では該当するチームもなく、ペナルティも出なかったことは大いに評価される。

フレッシュなチームの奮闘ぶりに次戦以降の期待も高まる開幕戦だった。



#74 への恩返し初優勝！



オイルも Get !



ビギナークラス





タイトルへ再始動！ #10



むむむ、またも2位 #5



ステップアップ初戦で3位表彰台！ #6



唯一の旧規格車 速さはトップクラス #55



序盤からバトルは白熱

「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

こちらは「エキスパート」クラス。マシン規定ははビギナーと変わらないながらも、タイムは速く、チーム力も一枚上手。開幕戦に出場する4チームのなかで、#6「ロッキーレーシング」は昨年のビギナークラスからステップアップしてきた。ビギナークラスではシリーズ4位の成績を残したが、エキスパートクラスではどうか。

#5「プロジェクト K」チーム、#10「FASTOUT」チームは、エキスパートクラスチャンピオンとシリーズ2位の実力派チーム。

さらに初参加の#55「STC 中部」チームは唯一の旧規格車ビートで挑む。

■予選

予選トップは#55「STC 中部 Hana's ビート」1'08.751。初参加のチームが唯一の08秒台に入れてクラストップを獲得の快挙。2位は#10「FAST OUT 最速アルト V」1'09.810。昨年は2勝を挙げる速さを見せながら最終戦のサスペンショントラブルでシリーズを逃しているだけに、今年に掛ける意気込みが伝わる。

3位は#5「Baden PROJECT K アルト」1'09.102。こちらは昨年のチャンピオンながら最高位は2位ということで勝利にかけける気持ちはこちらも強いものがある。いうなれば意地とプライドをかけたシーズンだ。

予選4位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」は1'12.197。予選の段階ではエキスパートとの差はまだ少しあるか…

■序盤

実力派が揃ったこのクラス、やはり序盤から白熱。スタート直後から#10「FAST OUT 最速アルト V」と#5「Baden PROJECT K アルト」が#55「STC 中部 Hana's ビート」をかわし、トップ争い。#55 も一旦は3位に下がるが、再逆転を狙う。

すると今度は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」が#55 にアタックかけて3位に上がる。いやいや目が離せない展開。

■中盤

中盤では少しリードしたのが#10「FAST OUT 最速アルト V」、昨年の雪辱とばかりに飛ばす。2番手走行は#5「Baden PROJECT K アルト」、こちらは円熟の走りか、チャンスを伺う。そして3番手にはエキスパートクラス上位陣に遅れまいと、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」が追いかける。

K 耐久東海シリーズの激しさに驚いたのか、序盤にスピンやコースアウトが続いた事もあって一旦は順位を下げた#55「STC 中部 Hana's ビート」だが、ここにきて予選を上回る1'08.490を出すなど、コツを掴んだか速さを見せる。

■終盤

ゴールまで残り1時間、#10「FAST OUT 最速アルト V」は95Lap。2位#5「Baden PROJECT K アルト」94Lap。3位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」93Lap。表彰台争いはこの3台で決着か。

中盤で上昇機運の#55「STC 中部 Hana's ビート」だったが、終盤にスピンコースアウトでSC導入となってしまう、上位進出は厳しくなった。だが、再出走は可能のようなので、最後まで集中を切らず走りたい。

もちろんこれは上位陣も同様、特に#10「FAST OUT 最速アルト V」と#5「Baden PROJECT K アルト」は完走の重さを知っているはずだ。

Race Report



■最終結果

最後まで逃げ切った#10「FAST OUT 最速アルト V」が、134Lap を走って開幕戦を勝利で飾った。2 位は#5「Baden PROJECT K アルト」が 132Lap。3 位にはビギナーからステップアップした#6「ロッキーレーシング DXL アルト」が 131Lap と健闘しての初表彰台。

スピンやコースアウトが目立った#55「STC 中部 Hana's ビート」だったが、最後は 126Lap と規定周回数を大幅クリアして完走、初ポイントを獲得した。

■総評

昨年の最終戦のトラブルで逃したチャンピオンへの街道を再び走り始めた、#10「FAST OUT 最速アルト V」の今後に注目。

一方#5「Baden PROJECT K アルト」の優勝はまたもお預け…ステップアップしてきた#6「ロッキーレーシング DXL アルト」と、“最速”よりも速かった#55「STC 中部 Hana's ビート」の実力も侮れない。エキスパートクラスはエキサイトクラスでもある、そんな印象を強く残した開幕戦であった。



エキスパートクラス



サーキットからは地元銘菓のおせんべいが





今年もいろいろあってもやはり… #25



いやー惜しい！！ #66



再び聞きますが筒香選手のファンですか #225

NCクラス（軽NAのクロースドクラス）

昨年は絶対王者#25「アカミネコマル 2 トウディ」が前人未到の V6 を達成し、改めてその強さを見せつけられたシーズンだった。ノーマルに近いこのクラスにおいてはまだ若干旧規格車が優位に立っており主力はトウディ、今回のエントリー 3 台もすべてトウディだ。

やはり注目は#25 を誰が倒すのか、はたまた今年も絶対王朝の時代が続くのか。ネコの首に鈴はつけられるか。

■予選

予選トップは、打倒ネコに燃える#66「VISCONTI トウディ」1' 07.603。今年こそ新王朝を打ち立てるべく闘志を燃やす。2 番手は#25「アカミネコマル 2 トウディ」1' 08.500、絶対王者はこの位置。3 番手#225「ぐっちちブラウニートウディ」1' 11.226、昨年も聞きましたが筒香選手のファンですか？

■序盤

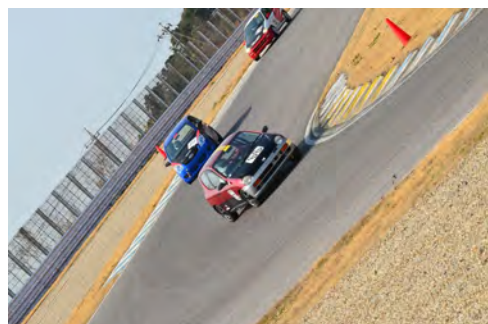
今年こそその思いに燃える#66「VISCONTI トウディ」、序盤からそのトップを守る。一方#25「アカミネコマル 2 トウディ」は 2 番手から様子をうかがう。3 番手#225「ぐっちちブラウニートウディ」だが、テストをしながら走行となっており、ペース的には上がらない。

■中盤

中盤ではがっぷり四つの争い。先行するのは、ここにきて”定位置”に戻ってきた#25「アカミネコマル 2 トウディ」。#66「VISCONTI トウディ」は 2 番手に後退。3 番手#225「ぐっちちブラウニートウディ」は完走ペースの走り。とここで絶対王者にらしからぬミスが出る、ピットロード速度違反によりピットストップペナルティを課される。

ちなみにこの時の違反速度は時速46キロ…最終コーナーの立ち上がりではNAマシンなら50キロ大きく超えることはないともいわれるので、ドライバーが思った以上に注意をしないとピットロードでは速度が上がってしまうことになる。

このペナルティで順位を下げた#25「アカミネコマル2トウディ」にかわり、#66「VISCONTI トウディ」はトップに再浮上。終盤に向かってまだまだひと波乱があるか。



序盤から積極的に飛ばしたが



またしてもこの後姿、やっぱり強かった

Race Report



■終盤

レースも終盤に入った頃、#66「VISCONTI トウディ」がルーティンのピットストップから復帰しようとした時、他クラスのコースアウトで SC 導入。ピットレーンに並んだ瞬間に出口がクローズ、#66「VISCONTI トウディ」はロスを強いられる。一方#25「アカミネコマル2 トウディ」はゴールに向かって走りきるのみ。SC導入では#225「ぐっちちブラウニートウディ」はクローズされたピットに入ったために3分のペナルティストップを課された、こちらの方は気をつければ防げるミスだけにもったいない。

■最終結果

今年の開幕戦を制したのは、またもや#25「アカミネコマル 2 トウディ」！136Lap だった。2 位となった#66「VISCONTI トウディ」135Lap、勝負にタラレバは無いのは承知の上だが、あの SC が勝負のあやとなったか…
3 位#225「ぐっちちブラウニートウディ」も、途中ピットに入ってから作業などもあったが 111Lap を走って規定周回数をクリア、無事完走となった。

■総評

絶対王者を追い詰めるチャンスがあっただけに、#66「VISCONTI トウディ」は惜しい一戦となった。#25「アカミネコマル 2 トウディ」は運に助けられたところもあるが、それを手繰り寄せるのも絶対王者のもつ”何か”なのかもしれない。今回はすべてトウディだったが、新規格車の参加も待ち遠しいところだ。



何事もないルーティンのはずだったが



ネズミ取りにはご注意ください



NC クラス





1年半ぶりのトップチェッカー！ #93



レース巧者ぶりは相変わらず 2位 #330



KeiからVIVIOで3位 #28



今回唯一のカブは4位 #82

TCクラス（軽過給機のクローズド）

昨年は新規格規定を活かした#330「RACING FAN」チームのミラが連覇。今年からはピットストップの運用に関して新旧の規格差は撤廃することになった。文字通りのガチバトルだ。

今年もチャンピオン#330「DIXCEL コンパノミラ」を中心に、強豪#93「藤枝マリンダイビングアルト」が挑む構図か。開幕戦にもこの2チームを中心に、昨年までKeiを愛車にしていた「KHK」チームが、#28のBLASTのヴィヴィオに乗って戦う、昨年ランキング2位と4位のジョイントとも言える構図で乗り込んできた。実力派が揃う全5チームで開幕戦の幕開けを待つ。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'05.942、古豪の力を見せてクラストップを獲得。その横に並ぶ予選2位は#28「KHK VIVIO」1'06.160。3番手は#69「モモヤマレーシングアルト」1'06.673、ここまで自己最高位は2位、今年は念願の優勝に手が届くか。4番手#330「DIXCEL コンパノミラ」1'06.990、これまで連覇中のチャンピオン、規定が変わった今年はどうか。ここまで4台はグリッドが密集している。5番手#82「東海☆麗神愚 KTM カブチーノ」1'11.775、#112「白須賀会」が欠席のなか、唯一のFRカブチーノ。

■序盤

シーズン開幕はどのクラスも気合が入っているものだが、今回は特に上位勢が接戦。スタートから飛ばす#93「藤枝マリンダイビングアルト」、それを追うのがこちらにも積極的に前に出る#330「DIXCEL コンパノミラ」。そして3番手走行は#28「KHK VIVIO」、4番手#69「モモヤマレーシングアルト」がほぼ同一周回。予選タイムを見てもわかるように、速さにはほとんど差がない。少し心配なのは#82「東海☆麗神愚 KTM カブチーノ」、マシンが本調子ではないのか、ペースが上がってこない。

■中盤

中盤でも上位の接戦は変わらない。トップを行く#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#330「DIXCEL コンパノミラ」は同一周回で火花を散らす。一歩下がった#28「KHK VIVIO」だが、まだ2Lapの差だ。#82「東海☆麗神愚 KTM カブチーノ」も、スピンなどもありながらもペースが上がってきたか。トラブルに見舞われているのが#69「モモヤマレーシングアルト」、白煙を上げてピットへ…オイルかクーラントか。

■終盤

ゴールまで残り一時間の時点で、トップの#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#330「DIXCEL コンパノミラ」は99Lapで同一周回、その差は30秒弱！ホワイトラインカットペナルティなどもあった#28「KHK VIVIO」は97Lap、表彰台はほぼ決まりか。#82「東海☆麗神愚 KTM カブチーノ」86Lap、#69「モモヤマレーシングアルト」77Lapでこちらはなんとか完走にもって行きたい。

Race Report



■最終結果

最後まで続いた熱戦は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が振り切ってチェッカー。久しぶりの優勝の味。追いつがった#330「DIXCEL コンパーノミラ」だったが、1Lap 及ばなかった。

3 位には#28「KHK VIVIO」が入り、ポディウム確定。

4 位#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」、5 位#69「モモヤマレーシングアルト」の 2 台もしっかりと規定周回数はクリア、開幕戦は全車完走。

■総評

新旧規格車のピット規定が統一された開幕戦だったが、ふたを開けてみれば接戦。最終的には1Lap 差だったのを、大きいと見るか小さいと見るか。

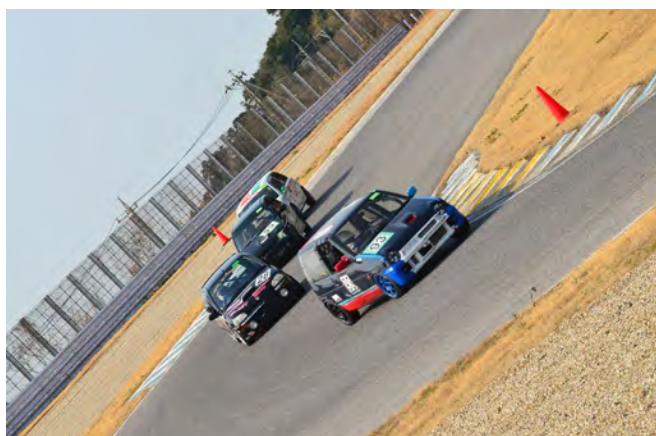
ちなみにレース中のベストタイムは#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#330「DIXCEL コンパーノミラ」の差はコンマ 4 秒ほどだった。

#28「KHK VIVIO」もペナルティもあったものの、実力のあるところを見せた。

本調子であれば#69「モモヤマレーシングアルト」もトップを争う力はあるはずだ。今後の展開が楽しみ。



本来の力からすると 5 位は不本意か #69



序盤から大接戦！



TC クラス

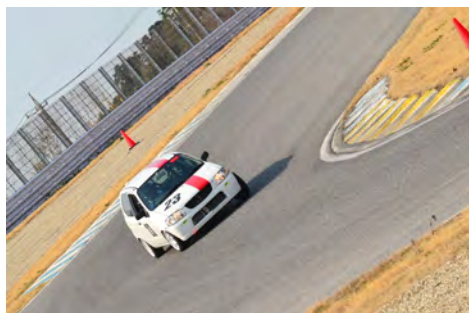




最強バトルをまず制したのは #38



フレッシュな走りで自己最高位 2 位 #488



速さは抜群 #23



OP クラス（軽NAおよびターボのオープンクラス）

大きな規則変更があったのはこのクラス、NO と TO が一つになって OP クラスとなった。いくなれば最速の K ということだ。過給器を選ぶか、NA を選ぶか、それぞれのポリシーがぶつかるバトルともいえる。

有力チームは昨年 NO クラスの王者 #38「デモリッションエグゼ」チーム、TO クラスでタイトルまであと一歩まで迫った #23「Jatsun」チームといったところ。

それに加え開幕戦では昨年の NN-B からステップアップしてきた #448「spearhead（スピアヘッド）」がマシンをミニカからプレオにチェンジして参加。

■予選

予選トップは、ターボ車の #23「Team Jatsun アルト」1'03.782 を記録しと全体の PP を獲得。2 位には NA で挑む #38「デモリッションエグゼトウディ」が 1'05.142、実力的には 04 秒台で走る速さを持っているだけにここは控えめか。

3 位は #448「spearhead プレオ」が 1'07.814、見た目はミラだけどノーズに輝く六連星と WR（っぽい）ブルーがプレオだと主張している。

■序盤

序盤からトップを行く #23「Team Jatsun アルト」、去年から大きく変わった点としては「ラインを入れました！」（チーム関係者）、早速 04 秒台を記録して後続を引き離しにかかる。

2 番手は #38「デモリッションエグゼトウディ」だが、まずはピットインを先行させたため、見た目上は #448「spearhead プレオ」が 2 位に上がる。

ところが、最初のステントを快調に飛ばしてきた #23「Team Jatsun アルト」に異変。オイルを吹いてエンジントラブルの模様……

■中盤

結局 #23「Team Jatsun アルト」は懸命の修復もならず、27 周走ったところでリタイヤとなってしまった。これで昨年から続く優勝かりタイヤか（完走すれば優勝）の記録は続いてしまうことに。

これでトップに立ったのは #38「デモリッションエグゼトウディ」。もともと総合のチェッカーを何度も受ける K 耐久を代表する強豪チームでもあり実力は充分。

2 位は #448「spearhead プレオ」、強豪チームにどこまで追いつかれるか。

■終盤

終盤になっても #38「デモリッションエグゼトウディ」は全体のトップを快走。レース残り 1 時間で唯一の 100Lap をに到達。#448「spearhead プレオ」も 06 秒台にあげ、96Lap を記録する。

この #448「spearhead チーム」も NN-B では優勝経験のあるチーム、フレッシュな走りで偉大な先輩の背中を追いかける。

あとはどちらにもトラブルが出ないことを願うばかりだ。

Race Report



■最終結果

結局レースは文句のつけようのない142Lapで、#38「デモリッションエグゼットウディ」のものとなった。それも全体の総合チェッカーだ。

2位は若々しい走りを見せた#448「spearhead プレオ」136Lapという結果。#448「spearhead プレオ」は嬉しいクラス初表彰台。

■総評

クラス統合の初戦は、#23「Team Jatsun アルト」のトラブルという形で決着が着いてしまった。しかしながら序盤戦に見せたスピードは健在。

対する#38「デモリッションエグゼットウディ」は、シリーズ開始から参加する名門チームの一つ。やはりここはバトルを見たかったが、それは次戦以降のお楽しみとしておこう。

#448「spearhead プレオ」の成長はこれまた楽しみ。さらに次戦以降といえば、とある有力チームが新マシンを準備しているという話がある。どんなマシンなのかはまだ謎ながら OP クラスということだ。

いよいよ始まった最強 K バトルクラス、どうなるか目が離せない。



プレオですよプ・レ・オ！



OP クラス



赤ラインもバッチリ決まってたんですが…



イエ〜い！！